

令和8年度 愛知教育大学入学試験問題
標準的解答例または出題の意図及び評価の観点

【前期日程】

科目名：総合問題（生活・総合専修）

入試問題 I

【出題の意図】

文章の内容を的確に読みとりその内容を根拠として、生活科と総合的な学習の時間の特質に関する経験や知見を考慮に入れながら、授業の質が高まり、若手教員が成長し続ける学校文化とは何かに関する自分の意見や見解を論理的に記述する能力を評価する。

【評価の観点】

問 1

- ・ 文章の内容を的確に読み取り、その内容に即して問いに答えているか。
- ・ 生活科と総合的な学習の時間の特質（趣旨や目的等）、および授業の質的向上とは何かについて、根拠を明確にししながら自らの見解を適切に述べているか。
- ・ 記述内容が論理的に展開され一貫性があるか。
- ・ 指定された文字数の適切な範囲内で誤字脱字等がなく記述内容を適切に述べているか。

問 2

- ・ 文章の内容を的確に読み取り、その内容に即して問いに答えているか。
- ・ 若手教師が成長する学校文化とは何か、根拠を明確にして答えているか。
- ・ 記述内容が論理的に展開され一貫性があるか。
- ・ 指定された文字数の適切な範囲内で誤字脱字等がなく記述内容を適切に述べているか。

【標準解答例】

問 1

生活科と総合的な学習の時間は、子どもたちが活動や体験を通して思いや願いを実現したり、課題を発見し解決したりしながら成長する教科等である。その活動や体験は学校内に留まらず、地域の方を含む多様な人々を巻き込む。また他教科等と関連した活動、横断的・総合的な課題の取り組みも大切である。教師は知識や技能を教え込むのではなく、子どもたちの興味・関心を引くような題材を考え、その出会わせを工夫し、意欲が持続する学習環境の設定、活動の展開、および指導や支援を構想する必要がある。教師の経験と力量が問われる。それゆえ、多様な年齢層の何人かの教師がアイディアを出し合い、協力していくことが質の高い授業につながる。(297 字)

問2

0 小学校では、質問に行くと手を止めて答えてくれる他学年の先生、教科の得意な先生、頼れる先生がたくさんいる。そのような先輩の先生にいつでも気軽に相談できる学校の雰囲気がある。研究主任の先生の口癖は「いつでも聞きに来ていいよ」だ。若手の先生が一人で悩まなくてもよい。また質の高い授業をするのが難しい生活科や総合的な学習の時間をみんな考えていく伝統がある。子どもたちが興味・関心を示しそうな教材、活動や体験の展開、授業の板書計画等も先輩の先生たちが一緒に考えてくれる。まさにチーム学校といえる文化、探究的で協働的な学校文化が根付いている。そのような探究的で協働的な学校文化の中で若手の教員が育っていく。(298字)

入試問題Ⅱ

【出題の意図】

小学1年生のアサガオ栽培の実践の板書記録から、児童のアサガオとの関わりを推察し、生活科の目標と(7)動植物の飼育栽培の内容の観点から児童の学びの意味を考察し、発言を価値づけることができると同時に、栽培活動においてどのような支援が必要か、教師の観点で考え表現することができる。

【評価の観点】

問1

- ・文章の内容を的確に読み取り、その内容に即して問いに答えているか。
- ・文中の児童の発言を2つの観点から適切に取り上げ、生活科の目標や(7)動植物の飼育栽培の内容の観点から学びの意味を考察し、適切な価値づけができていないか。
- ・記述内容が論理的に展開され一貫性があるか。
- ・指定された文字数の適切な範囲で、誤字脱字なく記述内容を適切に述べているか。

問2

- ・文章の内容を的確に読み取り、その内容に即して問いに答えているか。
- ・文中の児童の発言を引用しながら、栽培活動においてどのような教師の支援が大切かを考え、理由も含めて自分の見解を述べているか。
- ・記述内容が論理的に展開され一貫性があるか。
- ・指定された文字数の適切な範囲で、誤字脱字なく記述内容を適切に述べているか。

【標準解答例】

問1

両者の意見は、各々価値ある考えである。1このままでいい、と言う児童達は、「抜いちゃえば、かわいそう」「せっかく頑張って育ったのに、抜いちゃえば死んじゃって、お水ものめなくて、かわいそう。」と言うように、アサガオが生命を持ち成長していることや根を抜けば水が吸えず死に至ることを認識し、かわいそうと思う親愛の情を持っている。「緑色の種がまだある」の発言は、観察の事実から考えている。「アサガオと会えなくなる」「せっかく赤ちゃんから芽になって葉っぱが出て花が咲いて。枯れちゃっても育てたい。」等の発言は、大事に育てた自分の心情を表現している。2抜いた方がいい、と言う児童達は、「種あるから来年も咲かせられる。」「来年もいっぱい花を咲かせたい。」「リースを作っておかあさんに届けて飾ってもらいたい。」「クリスマスのリースを作りたい。」と、植物の命の循環を理解し、自分の生活を自分の手で豊かにしようと考えている。「リースを作れば、いっしょに過ごせる。」の発言は、両者の思いに共感し最善の方法を考えた姿である。

(449字)

問2

「せっかく赤ちゃんから芽になって葉っぱが出て花が咲いて。枯れちゃっても育てたい。」「アサガオがせっかく頑張って育ったのに、抜いちゃえば死んじゃって、お水ものめなくて、かわいそう。」という発言から、種をアサガオの赤ちゃんと思い、自分で土にまき水をやり、芽が生きていると実感を持てる場を設定し、アサガオの成長を見届け、友達や先生と共に成長を喜び、アサガオへの思いを深める日常的な支援が、生命に働きかけ親しみをもち大切にする児童を育むために、重要であると考えます。そして「抜きたくない。」「リースを作りたい。」と、児童が思いを率直に語り活動の方向を決め出せる話し合いの支援も、自立を養うために大切だと考えます。(300字)